

ISRC - 国際標準 レコーディングコード

ISRCとは

国際標準レコーディングコード（International Standard Recording Code、ISRC）は、個別のオーディオレコーディングまたは音楽ビデオレコーディング[A1]を一義的に識別するために使用されるものです。ISRCは、オーディオが存続する全期間にわたってそれを識別するものであり、多様なフォーマット、サービス、国境を越えて音楽関連の権利を管理するために不可欠です。デジタルプラットフォーム、共同管理機関、放送局、音楽認識会社などのサプライチェーンにおける様々な主体が、あなたの楽曲がどこでどのように聴かれているかを追跡するために使用しています。ISRCがなければ、あなたの楽曲が適切に識別されない可能性があり、収入を失いかねません。

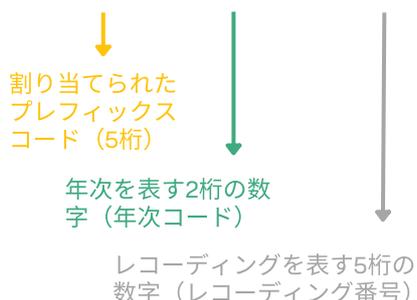


ISRCは、製品やリリース形態（アルバム、EP）を識別しません。
ISRCは、作曲、音楽著作物、演奏者を識別しません。
ISRCは、その他の物（商品、芸術作品、MIDIファイルなど）を識別しません。

ISRCの様式

以下のように、ISRCは12字（数字と英字）で構成されています。

JMK40 23 00001



プレフィックスコードは、2つの英字と、それに続く3つの英数字（合計5字）で構成されています。プレフィックスコードはISRC登録管理機関により付与されます（「ISRCの割り当て方法」をご参照ください）。

年次コードは、ISRCが当該レコーディングに割り当てられた年を識別します。通常、レコーディングの生産マスタの最終版が製作された年となります。

レコーディング番号は、登録者が割り当てた5桁の数字で構成されます。コードは連続して割り当てなければならない、同一年の中で1つのコードを重複して使用してはなりません。

詳細については、ISRC標準構造のウェブサイトをご覧ください。
<https://isrc.ifpi.org/en/isrc-standard/structure>

ISRCの割り当て方法

製作された全てのオーディオレコーディング（オーディオトラック）および音楽ビデオにISRCを割り当てる必要があります。通常、ISRCは、当該レコーディングの第一権利者により割り当てられます。あなたは、独自の5桁のプレフィックスコードを国の担当機関から取得することができます。



61の登録代理機関が68の国・地域をカバーしています。ご自身の国の担当機関は、次のサイトでご確認ください。
登録管理機関の中には、管理団体や企業団体も含まれていますが、プレフィックスコードの割り当てを受けるにあたり、それらのメンバーになる必要はありません。

あるいは、権利者に代わって任命された第三者の代理人（ISRC管理者）から、ISRCの割り当てを受けることもできます。一部のデジタル収集会社やデジタル配信会社が、事業の一環としてこうしたサービスを提供しています。

ISRCを付番せずにリリースされたレコーディングについては、遡及的にISRCを割り当てることができます。当該レコーディングにISRCがすでに付番されていないことを必ず確認してください。

国際的なISRCデータベースは、ISRCの検索ができるサイトのひとつです。その他、PPL Repertoire Search やSCPPのSound Recordings Searchがあります。

CD、DVD、Blu-ray、MP3、MP4などの広く使用されているフォーマットでは、レコーディングにISRCをエンコードすることができます。エンコードは推奨されていますが、義務ではありません。

データベースに記録しましょう。どのような方法でISRCを割り当てる場合でも、ISRCはメインのアーティスト、トラックタイトル、サブタイトル、トラックの長さ、コンテンツの種別（オーディオレコーディングまたは音楽ビデオレコーディング）などの主要メタデータと併せて保管しなければなりません。

どのような場合に新しいISRCが必要か

同じISRCを使用	新しいISRCが必要
同じレコーディング（重大な変更はなし）	音楽ビデオ
同じ長さ（差が10秒未満）	重大な変更（ライブバージョン、リミックス、インストバージョンなど）
ライセンス	エディット、クリップ、エクステンデッドバージョン（差が10秒を超える）
コンピレーション	レコーディングの組み合わせ
シングルバージョンとアルバムバージョン	
異なるエンコードフォーマット	
ハイレゾリューションとスタンダードレゾリューション	
リマスタリング（イコライゼーション、コンプレッション、デジタル信号処理）	リマスタリング（クリエイティブな要素の追加）

- 各音楽ビデオに、その音楽のオーディオレコーディングとは異なる個別のISRCが付番されます。
- 同一のレコーディングは、同じISRCで識別しなければなりません。
- トラックの長さを変更する場合、その変更がクリエイティブな要素に重大な影響を与えず、かつ差が10秒未満であれば、同じISRCを使用します。
- オーディオまたはビデオに**重大な変更を加える**場合、新しいISRCを付番しなければなりません。ライブバージョン、スタジオでの異なる収録、エディットバージョン、カバー、メドレー、リミックス、インストバージョン、エクステンデッドバージョン、クリップ、コールアウト[A1]などがこれにあたります。
- レコーディングの使用権が**第三者に与えられた**場合、元のISRCを継続して使用します。
- レコーディングが**コンピレーション**の中で再使用される場合、同じISRCを使用します。
- トラックがシングルとしてリリースされ、その後アルバムに収録される場合は、同じISRCを使用します。
- 組み合わせられたレコーディング**の全体および一部の両方が、別々に使用される可能性がある場合、各部分に1つのISRCを付番し、全体には別のISRCを付番します（例えば、クラシック曲の個々の楽章と、曲全体とに別のISRCを付番）。
- 異なる技術（例えば、オーディオレコーディング用のMP3やAAC、音楽ビデオ用のH.264やVP8）でエンコードされた同じレコーディングには、同じISRCを付番します。
- レコーディングのハイレゾリューション（例えば、96kHz/24bit）バージョンと、スタンダードレゾリューション（例えば、44.1kHz/16bit）バージョンには、同じISRCを付番します。
- リマスタリングにあたってレコーディングに施される処理が、クリエイティブな要素の追加を伴わない（例えば、レコーディングを変化させない、レコーディング全体に対するイコライゼーションやコンプレッション、ノイズ除去、クリック除去、スピードやピッチの修正、サンプリングレートの変更、ディザリングなどのデジタル信号処理）場合、新しいISRCを付番してはなりません。

詳細については、ISRC FAQのサイトをご確認ください。 <https://isrc.ifpi.org/en/faq>

新しいデジタル配信会社へ変更する場合には、全ての関連メタデータと併せて、ISRCを変更後の配信会社に提供してください。

詳細情報

IFPI（国際レコード産業連盟）は、国際ISRC登録管理機関[A1]です。より詳細なISRCの運用方法については、ISRC Handbookをご覧ください。



ISRC Handbook、第4版、国際ISRC
登録管理機関©2021 IFPI
ウェブサイト: <https://isrc.ifpi.org/>
Eメール: isrc@ifpi.org

@winformusic
winformusic.org